

# BT

http://www.bijutsu.co.jp

5  
Monthly  
Art Magazine  
Bijutsu Techo  
Vol.53 No.805  
May 2001

# 美術手帖



# VIVA! 肉体表現主義!!! EXTREME BODY & SOUL

キュピ・キュピ

鳥肌実

RIZE

ピエール瀧

スメリー

ニブロール

ハスラー・アキラ

21世紀カラダ百科♥

ロマンチカ、  
珍しいキノコ舞踊団、  
ローザス、伊藤キムほか  
肉体アーティスト50組!

香山リカ

NOI a.k.a. 榎木野衣

重森郎のクー・ジュン・ガ  
ドロテー・ゴルトツ  
ンリン・ネシャット

# Close up!

## クローズアップ 北京現代美術逍遙

北京の現代美術画廊はいま

文＝柴山 明

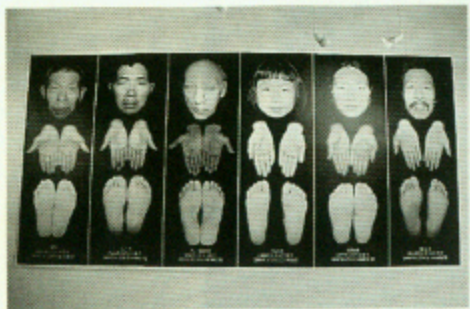
右——何森 He Sen 側身の女孫  
紅門画廊での展示  
左——馮衛東 Feng Weidong 香相  
凡爾賽での展示  
次頁——張大力 Zhang Dai 「対話」シリーズより 四合院画廊での展示

筆者がまだ北京に留学していた一九九三年から九五年頃、現代美術を扱う画廊は中央美術学院画廊以外では、市内北部のいまは伝説と化した翰墨芸術画廊ハムボク芸術画廊くらいであった。当時は芸術家の数に比較して発表の場は極端に少なく、また当局側の警戒も容認ではなく、芸術家の自宅を直接訪ねることが、パフォーマンスムも含め作品を目にできるおもな手段であった。その他では寺院の境内や公園内の小さな楼閣など、いま思えば奇妙な場所での展示が行なわれていたものだ。だが現在、北京には現代美術を専門に扱う画廊が複数存在し、われわれはそこで構成もみごとなど現代美術展を目にすることができ、今回は、こつとした画廊のいくつ

かをめぐる逍遙に出かけよう。筆者が訪れた昨年十一月末、故宮の東に隣接する四合院画廊では、張大力Zhang Daiの個展が最終日を迎えていた。本展は張のメインのシリーズ「対話」の最新作により構成され、作品は一点を除きみな平面であった。張の平面はおそらく九八—九九年頃にかけて制作された「Dialogue」シリーズ以来ではないだろう。

張大力といえれば一般にも大きな印象を与えた初期「対話」シリーズがすぐに想起される。塗鴉、なぐり書きとか筆墨という意味の中国語は、市内のいたるところに「わずか一秒」(人形)で描かれた、自分の顔面を象ったいびつな一筆書きのこの初期「対話」シリーズについてよく耳にすることばだが、本展の作品群にはもはやあてはまらない。だがシリーズを始めるきっかけとなった、張大力のイタリア在任時代に端を発する人との、そして都市との対話を希求する意識は持続されているようだ。ほんやりと、しかし写実的に描かれた身元不明の人物、画面いっばいに白抜きで書き込まれた「AK47」の文字。AK47とは中国でもコピー生産された、旧共産圏の代表的な軍用自動小銃である。

この最新作で張大力は、時間と歴史、過去との対話をも始めたようだ。つぎに訪れた凡爾賽では、画廊開設記念展の二日目だった。元はバーだつたという空間は少々クセがあり、正面





といって芸術作品の展示に向いているとは思えず、展示に苦労したとみえる。だが英国大使館裏手にあり、アメリカ大使館も近所。また文化人および外国人が多く集まる三里屯にもほど近く、中国国内での作品購買の中心となっている外国人が足しげく通うには都合がよいなどロケーションは抜群。画廊主の日出女史は以前にも市内南部で現代美術の画廊経営の経験があるだけに、今後の活動に注目したい。

北京画廊通達の最後は、本は四月号に紹介した「后物質展」を開催していた紅門画廊。今回は絵画を中心に複数の芸術家の作品が並んでいたが、そのなかでとくに注目されたのが何森の(側身)的(女孩)だった。人物の目は眼球が

省略され、肌と同じ色で塗られている。にもかかわらず作品から見られている。という戦慄と印象を与えるこの作品は、いまでも強烈に記憶されている。いつか時間をかけてじっくりと相対してみたい。

今回は時間の関係で訪れることができなかったが、北京にはほかに、長いニューヨークでの生活経験もあり、たいへん貴重な中国現代美術の参考文献を編纂した又未未が中心となって開設した芸術文献倉庫などがある。

夜、筆者は食事をともにした芸術家たちと斬新なつくりのバーが並び、酒場街とよばれる一帯にくりたした。ここは一見してそれとわかるいであちの、さまざまなジャンルの芸術家たち

が夜ごと集う。携帯電話でたれとなく呼び出しあい、お気に入りの店で懸燈と酒の飛沫のなかで互いの芸術観をたたかわせ、笑いと怒言が飛び交い、喧嘩は明け方まで及ぶ。だが日々激変の渦中にある北京では、盃を交える席でも昔を懐かしむ時間は許されない。社会は日々新たなページをめくりつつ、北京は今日も新しい日の出を迎える。

◎くりやま・あきら「中国現代美術研究家」

# 中央美術学院

Chubi Central Art School. Computer Art, Design,

Illustration, Painting

# 造形芸術科

案内資料請求はインターネットでどうぞ  
URL: [www.chubi.ac.jp](http://www.chubi.ac.jp)

E-mail: [chubi@chubi.ac.jp](mailto:chubi@chubi.ac.jp)

学校法人 専門学校 2年制 案内無料

東京都練馬区関町南3丁目15-4

☎03-3929-1230